



河川改修はⅠ期事業（黒田地区）に続き、下流のⅡ期事業（朝日町、南町付近）が実施されます。Ⅱ期事業の工事区間は大屋戸橋までの約2km。最大50mの引堤が行われます。

今後、名張川下流部の河道掘削や樹木伐採などの調査・設計、宇陀川下流部の築堤を進めていく計画です。

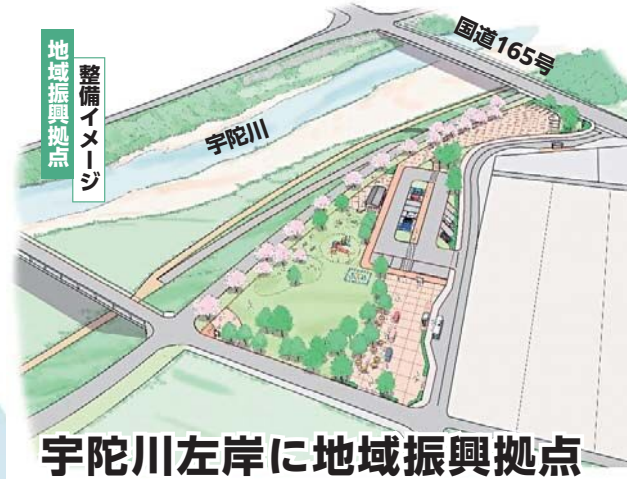
写真で見る

水害に強く、川に親しめるまちへ 名張川・宇陀川の河川改修

「名張かわまちづくり一体型浸水対策事業」の進捗状況や事業内容をお伝えします。

国土交通省 木津川上流河川事務所 ☎ 63 - 1611

詳しくはHPにも掲載中



宇陀川左岸に地域振興拠点



国土交通省の「名張かわまちづくり計画」に、「地域振興拠点」整備が追加されています（昨年9月に伝達式）。

地域振興拠点として、宇陀川左岸に広場や駐車場、トイレ、遊具などを設ける予定です。活用方法については、今後、市や名張地区まちづくり協議会、商工会議所、観光協会などでつくる「名張かわまちづくり協議会」で話し合っていきます。



名張大橋は、仮橋を設置している間に、元の橋を延伸し、拡幅した川幅に対応



従来の黒田橋を撤去し、人道橋（仮橋）を設置。その間に、新しい橋を架け替え



河川水位が、河川へ流れ込む水路より高くなった場合に逆流を防ぐ「樋門」を設置



階段護岸が整備され、名張川納涼花火大会では有料観覧席としても活用



やなせ宿前に河川へ続くスロープを設置。まちなかから河川への新たな動線となり、一体感が増した

第Ⅰ期事業周辺

interview

「治水」と「親水」を合わせた事業です

国土交通省 近畿地方整備局
木津川上流河川事務所

吉田 公則 所長



名張川の洪水被害を防ぐ

名張川と宇陀川の合流地点付近は川幅が狭く、市街地が近いので、かつて伊勢湾台風で大きな被害をもたらしました。近年は、ゲリラ豪雨など想定外の豪雨災害も増えている、青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダムの洪水調整機能をさらに発揮させる必要があります。

そこで、国土交通省は、令和元年度に「名張かわまちづくり一体型浸水対策事業」に着手。名張川と宇陀川の合流地点付近の左岸約1kmに堤を築き、河道を掘削して川幅を約2倍に広げる「引堤」を行っています。

今年度中には、黒田橋と名張大橋間の引堤工事に着手。来年度後半には、黒田橋、名張大橋も新しい姿が現れる予定です。これら黒田地区の工事は第一期事業に位置付けていて、総工費は約100億円。事業完了まであと数年かかる見込みです。第一期事業に続き、狭く湾曲している下流域（朝日町、東町付近）でも「引堤」を行う第二期事業を進めていきます。

水辺に親しめる空間を

本事業は、洪水の危険性を減らすだけでなく、通路や護岸などの整備を通じて、水辺に親しめる空間を生み出すことも目的としていて、完成した階段護岸や河川スロープは、名張川納涼花火大会や、やなせ宿の催しなどにも活用いただいています。

また、河川敷に新たに整備する親水広場の活用方法は、地域の皆さんや関係団体で構成される「かわまちづくり協議会」で検討いただきます。

黒田地区の工事もいよいよ終盤に差し掛かってきました。今後、河川改修と共に、地域活性化や観光振興に向けて、地域の皆さんと連携して取り組んでいきたいと考えています。